

AP SEIKO 講座概要

教授伝授シリーズ ～出題者・採点者・合否判定者の視点から教える～

医療経済・社会科学

No.3 EBM（根拠に基づく医療） —— 証拠のヒエラルキーを使って論じる

導入

「EBMとは何か」を問われたとき、「証拠に基づいて治療する」と答えるだけでは半分しか正解でない。EBMの本質は、研究デザインの質（エビデンスレベル）・患者の価値観・臨床的文脈の3つを統合した意思決定だ。この講座では、エビデンスレベルのピラミッド（RCT>コホート>症例対照>症例報告）と、NNT・感度・特異度の読み方を体系化し、医師の臨床判断に哲学的・統計的根拠を与える論証技術を習得する。

授業目標

- エビデンスレベルのピラミッド（体系的レビュー→RCT→観察研究→症例報告）を説明できる
- NNT（治療必要数）・ARR・RRRを使ってエビデンスの臨床的意義を評価できる
- EBMの3要素（最良のエビデンス・患者の価値観・臨床的専門知識）を論証に組み込める
- 「EBMの限界」（希少疾患・個別化医療・患者の多様性）も含めて600字論証できる

授業構成（90分）

時間	内容
0～15分	衝撃体験：「同じ疾患の論文でなぜ結論が逆になるのか」でエビデンスの質の重要性を体感
15～40分	エビデンスレベルの詳解・NNT/ARR/RRRの計算と臨床的解釈
40～65分	EBMの3要素統合実習：実際の治療選択場面でエビデンス・患者価値観・専門知識を統合
65～90分	面接応用：「EBMと個別化医療はどう両立するか」への論証型回答

課題

授業後：「EBMの利点と限界、そして医師の臨床判断との関係」について論述（600字）を作成・提出。

備考

医・薬学部対応。統計リテラシーシリーズとの併用で効果が最大化する。研究志向の強い大学（旧帝大・難関国立）を志望する受験生に特に推奨。